

平成 9 年度

原子力に関する技術的安全と 社会的安心等に関する調査報告書

平成 10 年 3 月

はじめに

現在、原子力発電は、我が国の総発電電力量の3割以上をまかない、エネルギー供給において重要な役割を果たす存在となっている。原子力施設は、その安全性について、厳しい安全思想に基づく安全性確保がなされているが、原子力の安全性に不安を感じる声は依然として多く、専門家にとっての技術的な安全性と国民一般にとっての社会的な安心とは差異があることが指摘されている。

原子力分野以外の技術に目を向けると、例えば航空機については約100年にわたる利用の歴史があり、我々人間社会は航空機利用に伴うリスクを何となく承知のうえで、その利便性を享受している。鉄道や車の利用に関してもまた然りである。

人間が原子力の平和利用を開始してから50年が経過したが、これら他分野の技術に比べれば未だ若い技術であるが故に、原子力に関する技術的な安全と社会的な安心については新しい概念であり、また学術的に見ても未開拓の部分が多い分野である。今後も持続可能な経済発展を進めていくためには、エネルギー確保の観点から世の中に受け入れられる安全と安心の概念を構築することは重要である。

こうした背景から、本調査研究は平成8年度より引き続き、若狭湾エネルギー研究センターが電源地域の状況に通じた地域の学術研究者、有識者を始め、原子力安全技術、リスク分析、社会的心理学、政治学、マスメディア・コミュニケーション論等の人文社会系を含む広範な分野の専門家による調査研究委員会を設置して、実施したものである。特に本年度は8年度に抽出された問題点・課題及びキーワードを基にその主要な課題について更に深く調査、分析したものである。

本調査研究が原子力に関する技術的な安全と社会的な安心に関する学術的な先鞭をつけるものになることを願うものである。

終わりに、本調査の実施にあたり科学技術庁や調査研究委員長をお願いした坂本慶一福井県立大学学長を始めとする調査研究委員の方々、ほかいろいろとご協力頂いた方々に心からお礼申し上げます。

平成10年3月

財団法人 若狭湾エネルギー研究センター

理事長 垣花 秀 武

平成9年度

原子力に関する技術的安全と
社会的安心等に関する調査報告書

(添付資料)

平成10年3月

財団法人 若狭湾エネルギー研究センター

はじめに

地域の学術研究者、有識者及び人文社会系を含む広範な分野の専門家による「原子力に関する技術的安全と社会的安心等に関する調査」委員会を設置し、2回委員会を開催した。この委員会は原子力に関する技術的な安全と社会的な安心の乖離や、立地地域と電力消費地域の住民意識の相違に関して、安全・安心の意味とその支配因子について検討すると共に、安全及び安心に関する主要な課題についても調査・検討するものである。

本別添資料は2回の委員会で訪談提供を頂いた委員の報告とその時の討論についてテープ起こしたものおよびそのとき配布された資料、および発表された時のOHPを集録したものである。テープ起こしたものについては演者に目を通して頂いたが、正確にテープ起こし出来ていない所もあるかも知れませんが、その時はお許し下さい。

今回の会議にて配布した資料は多量な資料の為、入手を希望される方は下記2機関において閲覧・複写（有料）に応じております。

- ・原子力公開資料センター（東京都文京区白山5-1-3-101）
TEL 03（5804）8484 東京富山会館ビル6F
土・日・祝日、10／1日は休館
- ・未来科学技術館（東京都新宿区西新宿）
TEL 03（3340）1821 新宿三井ビル1F
第2・第4火曜日は休館